

2024年8月6日 めぐみっ子クラブ (学童保育)

－ 遺伝について楽しく学ぼう－

毎日暑い日々が続いている中でも、元気いっぱいのめぐみ学童保育のみなさんと遺伝について一緒に学んできました。今回は小学1～3年生、70名が参加してくれました。

こんなにたくさんの人数で実施するのは初めての経験で、色んな工夫をしました。

学習状況は、遺伝看護・遺伝カウンセリングコース 1年 古賀さん、柏原さんの報告です。

1. 「PTUの味」

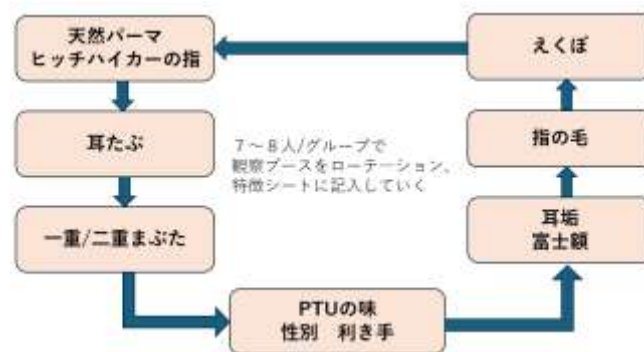
PTUの試薬をしみこませた細長い紙をなめて、味がする・しないの特徴をみていきます。紙を舐めた瞬間「うわ、苦い!」とびっくりしている子もいれば、「何にも感じない!」という子もいました。そして、味がする人/味がしない人に分かれて、向かい合わせに座ってもらい、人数を数えたり、男の子と女の子で違う?学童保育の先生方にも参加して頂き、大人ではどうか?も確認しました。

味がする・味がしないの違いについて認定遺伝カウンセラーの先生から、昔はこの「苦みを感じる」ことが食べてはいけないものを判断するために大切な「特徴」だったこと、それが今ではもうあまり必要ないけれど、苦い味がする・味がしないという違いは遠い昔の祖先から受け継がれていることを説明しました。



2. 「遺伝の木」

グループに分かれて、特徴ブースをまわりながら、1人1人特徴シートにチェックをつけて、自分の特徴を観察します。鏡やルーペを使ったり、近くのお友達に見せてお互いに教え合いながら、自分の特徴について調べることができました。「私はえくぼがないけど、〇〇ちゃんにはある!」などと、お友達と同じ特徴もあれば、違う特徴もあることに気づくことができました。



次に、特徴がある/ないについてのシールを自分の似顔絵を中心に書いたカードに貼って、自分の特徴が花びらになったお花を作りました。すると、それぞれの特徴が分かる自分だけのお花が出来上がりました。そして、このお花を木の枝分かれしている部分に“特徴”が示してある「遺伝の木」に貼り付けていくと、参加してくださっためぐみ学童保育の皆さんのお花が咲いた「遺伝の木」が出来上がりました。どの枝にもお花が咲くこと、いろんな特徴を持ったお友達がいるから、きれいな遺伝の木になることを感じてもらうことができました。

3. 「特徴ゲーム」

「特徴ゲーム」では、遺伝の木で観察した自分の特徴を使います。全員立ち上がってスタートします。代表のお友達に自分の特徴を1つずつ発表してもらい、その特徴と違う人は座っていくというゲームで、最後は全く同じ特徴を持つ人はいなくなります。みんな「自分の特徴を発表したい!」と言ってくれ、大盛り上がるのゲームとなりました。この日は2グループに分かれ、2人ずつのお友達が発表してくれ、誰ひとり同じ特徴を持つ人はいないことがわかりました。このゲームを通して、1つの特徴をみると同じ特徴を持っている人はたくさんいるけれど、たくさんの特徴をみていくと、同じ特徴の組み合わせを持つ人はいないこと、人間は1人1人違うことを学ぶことができました。



夏休みに一緒に遊んだり、勉強したりする仲間と一緒に、2時間楽しく勉強しました。

小学校低学年70名と学習する経験は、本当に貴重で、何より、学童の先生方のたくさんのご支援で実施できました。学童の中で使用している生活グループを活用できたため、特徴ブースでのグループ活動が円滑に進められたと感じました。

いつもの公開講座では、特徴のある/なしについて、挙手で人数を確認しますが、70名では数えるのも大変です。今回は、体育館の真ん中に境界線をつくって、特徴のある/なしで、子ども達に左右に分かれてもらいました。元気いっぱいの方は、仲良しのお友達と同じになったり、離れたり。たくさん走った人もいて、ちょっとしか動かなかった人もいて、「いろいろだね～」って笑顔があふれました。

最後は、みんなにハイタッチしてもらって、子ども達に元気をもらいました。私達にとって、新しいチャレンジでしたが、対象の特徴をしっかりと捉えた工夫で、楽しい学習ができることを改めて感じた実践でした。めぐみっ子くらぶの皆さん、ありがとうございました！

文責：森藤 香奈子